5　義務教育学校萩野学園における主な成果

主に「１年生から９年生まで毎日一緒に過ごすこと」の成果

- 上の学年が優しくなっている。下の学年は、上の学年に憧れの気持ちがある。
- 思いやりの心が育っており、児童生徒の人間関係がよい。
- 社会のルールを守る、安全に生活するなど、自律の心が育っている。

主に「義務教育学校の特色（９年間の系統性、異学年交流など）を生かすこと」の成果

- 中期ブロックからの教科担任制、乗り入れ授業等が学力向上につながっている。
- 児童生徒理解が深まり、９年間寄り添って指導することができている。
- ４年生、７年生、９年生で早くリーダー性が育成されている。

主に「地域や教職員に関すること」の成果

- 地域への関心が高く、ふるさとを好きな児童生徒が多くなっている。
- 教職員に一体感があり、教職員の資質・能力が高まっている。

９年生と１年生のふれあい

萩野学園校舎

6　小中一貫教育の実践から

児童生徒のかかわりを大切にした活動

中学生と小学生の学習交流

中学生による読み聞かせ

小中学生とＰＴＡによる合唱

地域とのつながりを大切にした活動

なしだんご作り体験

新庄まつり発表会

鹿子踊の調べ学習

新庄市教育委員会　〒996-8501　山形県新庄市沖の町１０－３７
TEL 0233-22-2111　FAX 0233-23-5600　E-mail gakkou@city.shinjo.yamagata.jp

子どもたちの９年間の学びと育ちをつなぐ

新庄市の小中一貫教育

―地域を支える人材の育成をめざして―

新庄市教育委員会

1　小中一貫教育に期待されること

（１）義務教育９年間を、計画的・継続的な教育指導を行うことにより、子どもたち一人一人の興味や関心、学習意欲等に基づいたきめ細かい指導が可能となり、個性や能力を伸ばすことができる。
（２）現代の子どもの発達に応じた弾力的な教育課程の編成を行ったり、小学校段階から一部教科担任制を導入したりするなど、９年間のスパンの中でその学校の特色に応じた創意工夫した教育活動が展開できる。
（３）小学校１年生から中学校３年生までの異年齢の子どもたちの意図的な交流や共に生活する場の設定により、豊かな人間性や社会性を育成することができる。
（４）小・中学校の教職員の共通理解にたった指導が実現し、学習面とともに、様々な生活指導上の課題に的確かつ迅速な対応を図ることができる。

2　小中一貫教育実施の意義

（１）９カ年を見通した教育課程の編成を通し、系統的な指導ができる。
（２）地域との協働による学校づくりを継続して展開できる。
（３）中一ギャップや不適応の解消などの教育課題の克服が期待できる。
（４）小中の教職員交流が進み、指導力や協働性の向上などの教育効果が期待できる。

3　新庄市の小中一貫教育の方向性

（１）５中学校区での特色ある小中一貫教育を推進する。

＜単線連携型＞

近隣の施設が異なる１つの小学校と１つの中学校で、教員や児童生徒が移動して学習したり、活動したりします。

新庄市立新庄中学校
▲　▼
新庄市立新庄小学校

新庄市立日新中学校
▲　▼
新庄市立日新小学校

＜複線連携型＞

近隣の施設が異なる複数の小学校と１つの中学校で、教員や児童生徒が移動して学習したり、活動したりします。

新庄市立八向中学校
▲　▼
新庄市立本合海小学校
新庄市立升形小学校

＜施設一体型＞

同じ校舎で、１年生から９年生までが共に学校生活を送ります。

新庄市立萩野学園
（平成２７年度開校）

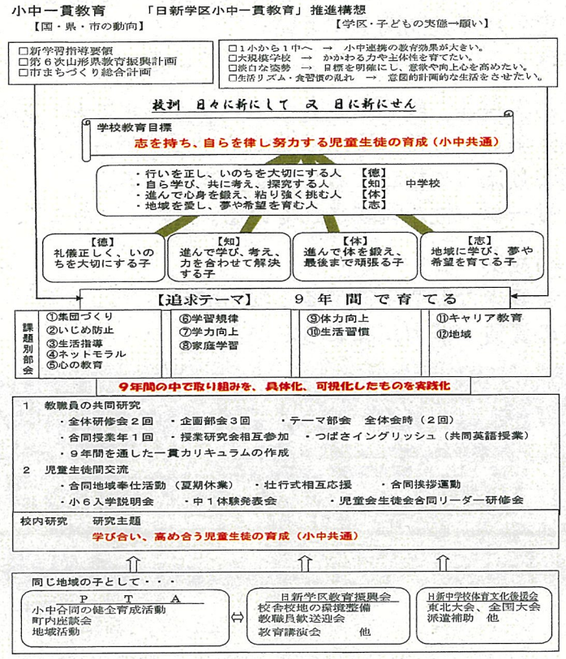
新庄市立明倫学園
（令和３年度開校）

明倫学園

（２）地域に根ざした小中一貫教育を推進する。
（３）総合的な教育環境整備計画のもとに推進する。
（４）個を大事にする情操豊かな教育、「こころの教育」を重視する。

4　3つの小中一貫教育のかたち

（１）単線連携型・複線連携型小中一貫教育（日新中学校区から）



小中合同あいさつ運動

中学生の小学校壮行式への参加

（２）施設一体型小中一貫教育（義務教育学校　萩野学園から）
①　教育課程・指導形態の工夫
・　「４（前期）－３（中期）－２（後期）」のブロック制を生かした指導
・　前・中期段階から一部教科担任制の導入
・　８・９年生の教科教室制（７年生から一部導入）
・　異学年交流の推進（学年交流・ブロック行事・全校行事）
②　家庭・地域との協働
・　学校運営協議会の設置（コミュニティ・スクールの導入）
・　地域に開かれた学校づくり

萩野学園の教育システム

学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	７年	８年	９年
特色	９年間の一貫教科カリキュラムによる指導								
区分	４－３－２ブロック制による教育区分								
	前期				中期			後期	
指導体制	学級担任制				教科担任制			教科教室制	
重点	基礎充実期 繰り返しの指導や補充指導による習熟を重視。基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。				活用期 活用を重視。思考力・表現力を育成。教科担任制、一部教科担任制の実施。小中教員の交流授業等による専門的な指導やＴＴで、学習への興味・関心を高める。			発展期 夢の実現、進路目標の達成に向けた発展的な学習の展開。課題の発見力、総合的な問題解決能力を育成する。	
部活動						部活動体験	部活動（６年３学期から）		